

令和4年度 小平市立小平第十三小学校 学校評価報告書

学校教育目標 21世紀をたくましく生きる子どもたちを育てることを目指し、以下の教育目標を設定する。
 ◎自ら考え行動する子ども(重点目標)・仲良く助け合う子ども・明るく元気な子ども

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 子どもたちのみならず、教職員、保護者、地域社会が、「自ら学び、他と共に」を共有し、自己の向上を求め続ける学校
- 【目指す児童・生徒像】 自ら学び、他と共に生きる子ども
- 【目指す教員像】 自ら考え行動し、常に研鑽を積み、自己の向上を求め続ける教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

【成果】教職員が一丸となって「健全育成」と「児童理解」に取り組んできたことにより、児童にとって居心地のよい学級・学校を実現できた。
 【課題】基礎的・基本的な学力の定着及び、知識や技能を活用し、学習者用端末を有効に活用しながら工夫して課題解決を行うことで、基礎的な学力向上を更にすすめる必要がある。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	①ホワイトボードの活用 ②ペアやグループでの意見交流 ③タブレット端末を中心としたICT教育機器の拡充と活用 ④授業アンケートの実施 ①「はい、立つ、です」の徹底 ②学習補助員の活用と個別指導 ③東京ベーシックドリルの活用 ④習熟度別によるきめ細かい算数科の指導	3	3	年度当初に、授業規律やホワイトボードの活用について周知したことで、浸透している。「これだけ」は各学級で確実に実施している。 資料の提示、児童の考えの共有など、様々な場面で全学年においてタブレット端末を活用できている。家庭への持ち帰りも順次進めている。 毎週金曜日の朝学習の時間に、東京ベーシックドリルを使用し、計算問題に取り組んでいる。診断シートを2年生以上の学年で学期ごとに実施し、学力の定着度を把握し、算数の授業改善に生かしている。校内事情により、習熟度別の算数指導は実施できていない。				
健全育成(いじめ防止)	①ふれあいアンケートの実施 ②いじめにかかわる道徳授業の実施 ③いじめ防止校内委員会の充実 ④生活のきまりの活用 ⑤あいさつ運動の実施 ⑥黙掃の推進 ⑦サポート会議の活用 ⑧委員会・クラブ・たてわり班の充実	3	3	ふれあい月間のアンケートの結果から課題を把握し、必要に応じていじめ防止校内委員会を開き、学校全体でいじめ防止に取り組んできた。細かい事案にも早期対応、解決が図られている。 代表委員会を中心にあいさつ運動を実施し、朝だけでなく、様々な場面であいさつをするように指導している。 委員会・クラブ・たてわり班活動は、感染防止対策をした上で、回数や活動内容を減らすことなく実施することができている。				
特別支援教育	①特別支援教室の効果的運営 ②特別支援巡回指導の活用 ③個別指導計画の作成と活用 ④特別支援校内委員会の効率的な運営 ⑤こげら支援シートの活用 ⑥児童一人一人の正確な見取り ⑦教室前面の掲示物の配慮 ⑧ホワイトボードの活用	3	3	特別支援教室の指導を効果的に進めることができるように、学級担任、通級学級の教員、特別支援専門員、特別支援コーディネーターがこまめに情報を共有し、連携を図ることができている。 巡回指導教員の授業観察の際に、通級児童のみだけでなく、気になる児童も多く見てもらい、必要に応じて個別指導計画を作成し、学校全体で情報を共有できるようにした。一人一人への組織的な対応を今後も継続する。				
体力の向上	①休み時間の校庭での活動計画 ②なわとび技術の向上 ③マラソンへの取組強化 ④体力テストの結果を基にした体育の指導の工夫 ①感染症対策の理解と実践 ②「早起き、早寝、朝ご飯」の啓発活動 ③基本的な生活習慣の確立 ④栄養士と学級担任による食育の授業	3	3	休み時間に校庭に出ることを呼びかけるだけでなく、教員も積極的に児童と遊んだり、計画的に学級レクを実施した。しかし、感染防止対策として、校庭を学年ごとに場所を区分けしたことで、校庭に出て遊ぶ児童はそれ程多くない。今後改善を続ける。 感染防止を図りながら、運動会ではコロナ禍以前と同じように、徒競走、団体競技、団体表現、代表リレーを実施することができた。 保健だよりや栄養士との食育授業、出前授業を通して、基本的な生活習慣や食の大切さを指導し、効果を上げつつある。				
ライバルワーク	①C4thの積極的な活用 ②繁忙期を避けた月2回の定時退勤日の設定 ③年次有給休暇の15日取得、及び20日取得 ④管理職の積極的な休暇取得 ⑤副校長補佐の計画的・積極的な活用 ⑥スクール・サポート・スタッフの計画的・積極的な活用	3	2	C4thを積極的に活用したことで、情報を共有しやすくなったたり、連絡会の時間を短縮したりすることができた。 定時退勤日の設定、職員会議の内容の精選・削減により教職員が積極的に年次有給休暇を取ることができた。 スクール・サポート・スタッフの活用については、校内で見直しを行い、より校内の実情に合わせた活用が図れている。				